





相模原市障害福祉サービス介護給付費支給決定基準【新旧対照表】

改 正 後	現 行
	
障害福祉サービス介護給付費支給決定基準	障害福祉サービス介護給付費支給決定基準
居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援	居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援
	
令和 4 年 4 月 1 日施行	令和 3 年 4 月 1 日施行

1. 支給決定基準について

「障害者総合支援法」は、障害者及び障害児が基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができるよう、総合的に支援を行うことを目的としており、申請者一人ひとりがニーズに合わせ、様々な障害福祉サービスを組み合わせて利用できる仕組みになっています。

その障害福祉サービスの支給決定は、各市町村で行っておりますが、厚生労働省からの通知では、支給量の決定についての支給決定基準を定めておくことが適当であるとされております。そのため、本市においても介護給付費等の支給決定を公平かつ適正に行うため、支給決定基準を定めるものです。

2. 対象サービスについて

ここに定める支給決定基準対象は障害福祉サービスのうち、地域で日常生活や社会生活を送る上で障害者の在宅生活を支援する訪問系サービス（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援利用者）です。

3. 支給量の決定について

1. 支給決定基準について

「障害者総合支援法」は、障害者及び障害児が基本的人権を享有する個人としての尊厳にふさわしい日常生活又は社会生活を営むことができるよう、総合的に支援を行うことを目的としており、申請者一人ひとりがニーズに合わせ、様々な障害福祉サービスを組み合わせて利用できる仕組みになっています。

その障害福祉サービスの支給決定は、各市町村で行っておりますが、厚生労働省からの通知では、支給量の決定についての支給決定基準を定めておくことが適当であるとされております。そのため、本市においても介護給付費等の支給決定を公平かつ適正に行うため、支給決定基準を定めるものです。

2. 対象サービスについて

ここに定める支給決定基準対象は障害福祉サービスのうち、地域で日常生活や社会生活を送る上で障害者の在宅生活を支援する訪問系サービス（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援利用者）です。

3. 支給量の決定について

(1) 支給基準時間と支給上限時間

本市では、厚生労働省の定める国庫負担基準の支給量から算出した「支給基準時間」（別紙）に、サービスの利用意向、家族等の介護者の状況、社会参加の状況など、聴き取り調査の内容とサービス等利用計画案等を勘案して算出した「支給加算時間」を加味した時間を「支給上限時間」とします。

また、支給基準時間を超えたものは本市における非定型として扱い、市の裁量として支給決定を行います。

$$\text{支給}\underline{\text{基準}}\text{時間} + \text{支給}\underline{\text{加算}}\text{時間} = \text{支給}\underline{\text{上限}}\text{時間}$$

なお、支給基準時間は国庫負担基準を基に算出するため、変更となる場合があります。

※国庫負担基準とは

障害者総合支援法では、国の費用負担を「義務化」することで財源の裏付けを強化する一方で、障害福祉に関する国と地方自治体間の役割分担を前提に、限りある国費を公平に配分し、市町村間のサービスのばらつきをなくすために、市町村に対する国庫負担の上限を定めています。それを国庫負担基準といいます。国庫負担基準は報酬改定のたびに見直され、それに合わせて当基準の支給基準時間も見直しを行います。

(1) 支給基準時間と支給上限時間

本市では、厚生労働省の定める国庫負担基準の支給量から算出した「支給基準時間」（別紙）に、サービスの利用意向、家族等の介護者の状況、社会参加の状況など、聴き取り調査の内容とサービス等利用計画案等を勘案して算出した「支給加算時間」を加味した時間を「支給上限時間」とします。

また、支給基準時間を超えたものは本市における非定型として扱い、市の裁量として支給決定を行います。

$$\text{支給}\underline{\text{基準}}\text{時間} + \text{支給}\underline{\text{加算}}\text{時間} = \text{支給}\underline{\text{上限}}\text{時間}$$

なお、支給基準時間は~~当該年度の前年度の~~国庫負担基準を基に算出するため、~~4月に~~変更となる場合があります。

※国庫負担基準とは

障害者総合支援法では、国の費用負担を「義務化」することで財源の裏付けを強化する一方で、障害福祉に関する国と地方自治体間の役割分担を前提に、限りある国費を公平に配分し、市町村間のサービスのばらつきをなくすために、市町村に対する国庫負担の上限を定めています。それを国庫負担基準といいます。国庫負担基準は報酬改定のたびに見直され、それに合わせて当基準の支給基準時間も見直しを行います。

(2) 支給加算時間

介護者の有無や身体特性、障害特性等から生じる勘案事項は次のとおりとします。

ア 生活状況

単身世帯、家族の疾病等により介護不能、家族が不在など、介護者の有無や介護の程度に応じた加算です。

イ 障害状況

身体特性又は行動特性により、特別な介護等が必要となる程度に応じた加算です。

ウ 環境状況

生活拠点が山間地に所在し、通院等の移動に時間を要するなど、外的要因による配慮の程度に応じた加算です。

ケースワーカーは勘案事項整理票、「支給基準時間を超える理由書」及び障害支援区分認定調査の結果等をもとに、支給加算時間を算定します。

4. サービス等利用計画案が支給基準時間を超える場合について

(2) 支給加算時間

介護者の有無や身体特性、障害特性等から生じる勘案事項は次のとおりとします。

ア 生活状況

単身世帯、家族の疾病等により介護不能、家族が不在など、介護者の有無や介護の程度に応じた加算です。

イ 障害状況

身体特性又は行動特性により、特別な介護等が必要となる程度に応じた加算です。

ウ 環境状況

生活拠点が山間地に所在し、通院等の移動に時間を要するなど、外的要因による配慮の程度に応じた加算です。

ケースワーカーは勘案事項整理票、「支給基準時間を超える理由書」及び障害支援区分認定調査の結果等をもとに、支給加算時間を算定します。

4. サービス等利用計画案が支給基準時間を超える場合について

改 正 後	現 行
<p data-bbox="174 225 1115 422"> <u>支給基準時間は、国庫負担基準をもとに目安となる支給量を定めたもので、支給量の上限ではありません。</u>サービス等利用計画案（以下、「利用計画案」という）の作成に当たっては、利用者ご本人の障害の状況や生活の状況等を加味する必要があります。 </p> <p data-bbox="174 467 1115 555"> このため、<u>利用計画案が支給基準時間を超える場合は</u>、申請者に「支給基準時間を超える理由書」を提出していただきます。 </p>	<p data-bbox="1137 225 2078 422"> <u>支給基準時間は、国庫負担基準をもとに目安となる支給量を定めたもので、支給量の上限ではありません。</u>サービス等利用計画案（以下、「利用計画案」という）の作成に当たっては、利用者ご本人の障害の状況や生活の状況等を加味する必要があります。 </p> <p data-bbox="1137 467 2078 555"> このため、<u>利用計画案が支給基準時間を超える場合は</u>、申請者に「支給基準時間を超える理由書」を提出していただきます。 </p>

別記様式（第5条関係）

支給基準時間を超える理由書

対 象 者	受給者番号 (更新のみ)										
	ふりがな										
	氏 名										
	生年月日	S・H・R	年	月	日						
サービスの種類	①	②	③								
利用希望時間数	時間/月		時間/月		時間/月						
本人の心身の状況											
家族・介護者の状況 (就労の状況など)											
支給量を超過する必要がある特段の事情											
その他特記事項 (事業所の意見など)											

上記のとおり、理由書を提出します。

年 月 日

指定特定相談支援事業所名
(セルフプランの方は申請者氏名)

【注意】

※この理由書は支給基準時間を超える支給量の必要性について判断するための資料になりますので、できるだけ詳しく記入してください。欄が不足する場合は、別紙を添付することもできます。

＜市記入欄＞

サービス	①	②	③
基準 時間	時間	時間	時間
上限 時間	時間	時間	時間
上限×1.25	時間	時間	時間
更新前	時間	時間	時間
検討(審査)の結果	時間	時間	時間

☐ 窓口課決定
 (□区分更新でないため □時間が超えないため)
☐ 検討会議 → / 開催へ提出
☐ 審査会 → / 開催へ提出
 緑・中・南・城・津・湖・藤【○で囲む】
 担当CW: _____

【連絡事項】

【管理番号】

※利用計画案が支給基準時間を超えない場合は提出の必要はありません。

別記様式（第9条関係）

支給基準時間を超える理由書

対 象 者	受給者番号 (更新のみ)										
	ふりがな										
	氏 名										
	生年月日	S・H・R	年	月	日						
サービスの種類	①	②	③								
利用希望時間数	時間/月		時間/月		時間/月						
本人の心身の状況											
家族・介護者の状況 (就労の状況など)											
支給量を超過する必要がある特段の事情											
その他特記事項 (事業所の意見など)											

上記のとおり、理由書を提出します。

年 月 日

指定特定相談支援事業所名
(セルフプランの方は申請者氏名)

【注意】

※この理由書は支給基準時間を超える支給量の必要性について判断するための資料になりますので、できるだけ詳しく記入してください。欄が不足する場合は、別紙を添付することもできます。

＜市記入欄＞

サービス	①	②	③
基準 時間	時間	時間	時間
上限 時間	時間	時間	時間
上限×1.25	時間	時間	時間
実績決定額	時間	時間	時間

☐ 窓口課決定
☐ 検討会議 → / 開催
☐ 審査会 → / 開催
 緑・中・南・城・津・湖・藤【○で囲む】
 担当CW: _____

【連絡事項】

※利用計画案が支給基準時間を超えない場合は提出の必要はありません。

5. 支給量決定までのプロセスについて

ケースワーカーが算定した支給加算時間から「支給上限時間」を算出し、それと利用計画案を比べて次のとおり決定します。

ア 支給基準時間を超えた時間数が一定の範囲（支給上限時間の1.25倍まで）に収まる場合は、各高齢・障害者相談課または各保健福祉課（以下、「担当窓口」という）で支給時間の決定を行います。

イ 支給基準時間を超えた時間数が一定の範囲（支給上限時間の1.25倍）を超える場合には、市のケースワーカー等で構成する「相模原市障害福祉サービス支給決定検討会議」（以下、「検討会議」という）で審査した上で、担当窓口が支給時間の決定を行います。

ウ 検討会議において更に専門的な意見が必要と認められた場合には「相模原市障害支援区分判定等審査会」（以下、「審査会」という）の意見を聴取した上で、担当窓口が支給時間の決定を行います。

5. 支給量決定までのプロセスについて

ケースワーカーが算定した支給加算時間から「支給上限時間」を算出し、それと利用計画案を比べて次のとおり決定します。

ア 支給基準時間を超えた時間数が一定の範囲（支給上限時間の1.25倍まで）に収まる場合は、各高齢・障害者相談課または各保健福祉課（以下、「担当窓口」という）で支給時間の決定を行います。

イ 支給基準時間を超えた時間数が一定の範囲（支給上限時間の1.25倍）を超える場合には、市のケースワーカー等で構成する「相模原市障害福祉サービス支給決定検討会議」（以下、「検討会議」という）で審査した上で、担当窓口が支給時間の決定を行います。

ウ 検討会議において更に専門的な意見が必要と認められた場合には「相模原市障害支援区分判定等審査会」（以下、「審査会」という）の意見を聴取した上で、担当窓口が支給時間の決定を行います。

改正後	現行
<p>The diagram shows a timeline with vertical lines representing time points. A blue double-headed arrow labeled '支給上限時間' (Payment Limit Period) spans from the start to a point labeled '支給基準時間' (Payment Standard Time). A pink box labeled '加算' (Addition) extends this period to a final point labeled '支給上限時間 × 1.25'. Four horizontal arrows represent different cases: Case A (green) is decided at the standard time; Case A (green) is decided after a review; Case I (pink) is decided after a review and committee; Case U (pink) is decided after a review, committee, and review meeting.</p>	<p>The diagram shows a timeline similar to the 'After Revision' version, but without the 1.25x extension. The '支給上限時間' arrow ends at the '支給基準時間'. The same four cases (A, A, I, U) are shown, but for cases I and U, the review process is completed by the standard payment time, so no extension is needed.</p>
<p>6. その他</p> <p>ア 検討会議及び審査会での審査の省略</p> <p>既に支給決定を受けている場合で、提出された利用計画案が支給決定を受けている支給量の範囲内であり、かつ、前年と比較し、生活状況等に変化がない場合には、<u>障害支援区分の更新時を除き</u>、検討会議及び審査会での審査を省略することができるものとします。</p>	<p>6. その他</p> <p>ア 検討会議及び審査会での審査の省略</p> <p>既に支給決定を受けている場合で、提出された利用計画案が支給決定を受けている支給量の範囲内であり、かつ、前年と比較し、生活状況等に変化がない場合には、<u>障害支援区分の更新時を除き</u>、検討会議及び審査会での審査を省略することができるものとします。</p>

改 正 後	現 行
<p data-bbox="197 225 461 253">イ 特定月のある場合</p> <p data-bbox="264 296 1048 325">特定月の設定がある場合は、それ以外の月の時間数で判断します。</p> <p data-bbox="197 371 593 400">ウ 支給決定まで急を要する場合</p> <p data-bbox="181 443 1108 568">提出していただいた窓口で、暫定の支給決定を即時に行います。この場合、あくまでも暫定の決定になりますので、検討会議又は審査会で審査を行った結果、支給時間が変更となる場合があります。</p>	<p data-bbox="1160 225 1424 253">イ 特定月のある場合</p> <p data-bbox="1227 296 2011 325">特定月の設定がある場合は、それ以外の月の時間数で判断します。</p> <p data-bbox="1160 371 1556 400">ウ 支給決定まで急を要する場合</p> <p data-bbox="1144 443 2072 568">提出していただいた窓口で、暫定の支給決定を即時に行います。この場合、あくまでも暫定の決定になりますので、検討会議又は審査会で審査を行った結果、支給時間が変更となる場合があります。</p>

改正後	現行																																				
<div>別紙</div> <p>《支給基準時間》</p> <p>算定方法は、厚生労働大臣が定める障害福祉サービス費等負担対象額に関する基準等（平成十八年厚生労働省告示第五百三十号）に定める各サービスのひと月あたりの国庫負担基準単位数を、サービスごとに1時間相当の報酬単位で除したものとし、小数点以下の端数については切り上げるものとする。</p> <p>なお、算定に用いる単位は、本基準に掲げるとおりとする。</p> <p>（１）居宅介護利用者（身体介護） 身体介護：令和3年度国庫負担基準÷ 「報酬単位所要時間30分以上1時間未満の場合（402単位）」</p> <table> <tr> <th>令和3年度国庫負担基準</th><th>支給基準時間</th></tr> <tr> <td>区分1</td><td>3,040単位 8時間</td></tr> <tr> <td>区分2</td><td>3,930単位 10時間</td></tr> <tr> <td>区分3</td><td>5,770単位 15時間</td></tr> <tr> <td>区分4</td><td>10,850単位 27時間</td></tr> <tr> <td>区分5</td><td>17,380単位 44時間</td></tr> <tr> <td>区分6</td><td>25,000単位 63時間</td></tr> <tr> <td>障害児</td><td>9,750単位 25時間</td></tr> <tr> <td>障害児（重心）</td><td>－</td></tr> </table> <p>※重症心身障害児の支給上限時間について 重症心身障害児は、重度の肢体不自由及び、重度の知的障害が重複しており、児童相談所で認定を受けた者をいいます。このことから、障害者へ移行して取得する障害支援区分においても比較的高い支援区分の認定が想定されることから、重症心身障害児の支給上限時間については、区分6の支給上限時間と同様とします。</p> <p>（２）居宅介護利用者（家事援助） 家事援助：令和3年度国庫負担基準÷ 「報酬単位所要時間45分以上1時間未満の場合（196単位）」</p>	令和3年度国庫負担基準	支給基準時間	区分1	3,040単位 8時間	区分2	3,930単位 10時間	区分3	5,770単位 15時間	区分4	10,850単位 27時間	区分5	17,380単位 44時間	区分6	25,000単位 63時間	障害児	9,750単位 25時間	障害児（重心）	－	<div>別紙</div> <p>《支給基準時間》</p> <p>（１）居宅介護利用者（身体介護） 身体介護：平成30年度国庫負担基準÷ 「報酬単位所要時間30分以上1時間未満の場合（392単位）」</p> <table> <tr> <th>平成30年度国庫負担基準</th><th>支給基準時間</th></tr> <tr> <td>区分1</td><td>2,930単位 7.5時間</td></tr> <tr> <td>区分2</td><td>3,790単位 9.7時間</td></tr> <tr> <td>区分3</td><td>5,580単位 14.2時間</td></tr> <tr> <td>区分4</td><td>10,480単位 26.7時間</td></tr> <tr> <td>区分5</td><td>16,780単位 42.8時間</td></tr> <tr> <td>区分6</td><td>24,150単位 61.6時間</td></tr> <tr> <td>障害児</td><td>9,420単位 24.0時間</td></tr> <tr> <td>障害児（重心）</td><td>－</td></tr> </table> <p>※重症心身障害児の支給上限時間について 重症心身障害児は、重度の肢体不自由及び、重度の知的障害が重複しており、児童相談所で認定を受けた者をいいます。このことから、障害者へ移行して取得する障害支援区分においても比較的高い支援区分の認定が想定されることから、重症心身障害児の支給上限時間については、区分6の支給上限時間と同様とします。</p> <p>（２）居宅介護利用者（家事援助） 家事援助：平成30年度国庫負担基準÷ 「報酬単位所要時間45分以上1時間未満の場合（191単位）」</p>	平成30年度国庫負担基準	支給基準時間	区分1	2,930単位 7.5時間	区分2	3,790単位 9.7時間	区分3	5,580単位 14.2時間	区分4	10,480単位 26.7時間	区分5	16,780単位 42.8時間	区分6	24,150単位 61.6時間	障害児	9,420単位 24.0時間	障害児（重心）	－
令和3年度国庫負担基準	支給基準時間																																				
区分1	3,040単位 8時間																																				
区分2	3,930単位 10時間																																				
区分3	5,770単位 15時間																																				
区分4	10,850単位 27時間																																				
区分5	17,380単位 44時間																																				
区分6	25,000単位 63時間																																				
障害児	9,750単位 25時間																																				
障害児（重心）	－																																				
平成30年度国庫負担基準	支給基準時間																																				
区分1	2,930単位 7.5時間																																				
区分2	3,790単位 9.7時間																																				
区分3	5,580単位 14.2時間																																				
区分4	10,480単位 26.7時間																																				
区分5	16,780単位 42.8時間																																				
区分6	24,150単位 61.6時間																																				
障害児	9,420単位 24.0時間																																				
障害児（重心）	－																																				

改正後

令和3年度国庫負担基準		支給基準時間
区分1	3,040 単位	16 時間
区分2	3,930 単位	21 時間
区分3	5,770 単位	30 時間
区分4	10,850 単位	56 時間
区分5	17,380 単位	89 時間
区分6	25,000 単位	128 時間
障害児	9,750 単位	50 時間

(3) 重度訪問介護利用者

重度訪問介護：令和3年度国庫負担基準÷
「報酬単位所要時間2時間30分以上3時間未満の場合（550 単位※）」×3

令和3年度国庫負担基準		支給基準時間
区分4	28,430 単位	156 時間
区分5	35,630 単位	195 時間
区分6	50,800 単位	278 時間

※重度訪問介護においては、原則3時間以上の利用が想定されているため、「2時間30分以上3時間未満」の550 単位を利用し、3倍したものを支給基準時間とします。

(4) 同行援護利用者

同行援護：令和3年度国庫負担基準÷
「報酬単位所要時間1時間未満の場合（300 単位）」

令和3年度国庫負担基準		支給基準時間
区分に関わらず	13,270 単位	40.0 時間

※同行援護については、45 時間であるが、移動介護の基準時間（40.0 時間）と同様とします。

(5) 行動援護利用者

現行

平成30年度国庫負担基準		支給基準時間
区分1	2,930 単位	15.3 時間
区分2	3,790 単位	19.8 時間
区分3	5,580 単位	29.2 時間
区分4	10,480 単位	54.8 時間
区分5	16,780 単位	87.8 時間
区分6	24,150 単位	126.4 時間
障害児	9,420 単位	49.3 時間

(3) 重度訪問介護利用者

重度訪問介護：平成30年度国庫負担基準÷
「報酬単位所要時間2時間30分以上3時間未満の場合（549 単位※）」×3
時
間

平成30年度国庫負担基準		支給基準時間
区分4	26,920 単位	147.1 時間
区分5	33,740 単位	184.3 時間
区分6	48,110 単位	262.8 時間

※重度訪問介護においては、原則3時間以上の利用が想定されているため、「2時間30分以上3時間未満」の549 単位を利用し、3倍したものを支給基準時間とします。

(4) 同行援護利用者

同行援護：平成30年度国庫負担基準÷
「報酬単位所要時間1時間未満の場合（406 単位）」

平成30年度国庫負担基準		支給基準時間
区分に関わらず	12,730 単位	40.0 時間

※同行援護については、31.3 時間であるが、移動介護の基準時間（40.0 時間）と同様とします。

(5) 行動援護利用者

改正後	現行																																
<p>行動援護：令和3年度国庫負担基準÷ 「報酬単位所要時間1時間未満の場合（407単位）」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和3年度国庫負担基準</th><th>支給基準時間</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区分3</td><td>15,310単位 38時間</td></tr> <tr> <td>区分4</td><td>20,630単位 51時間</td></tr> <tr> <td>区分5</td><td>27,440単位 68時間</td></tr> <tr> <td>区分6</td><td>35,660単位 88時間</td></tr> <tr> <td>障害児</td><td>19,480単位 48時間</td></tr> </tbody> </table> <p>（6）重度障害者等包括支援利用者 重度障害者等包括支援：令和3年度国庫負担基準÷ 「報酬単位所要時間1時間未満の場合（203単位）」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>令和3年度国庫負担基準</th><th>支給基準時間</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区分6</td><td>94,770単位 467時間</td></tr> </tbody> </table>	令和3年度国庫負担基準	支給基準時間	区分3	15,310単位 38時間	区分4	20,630単位 51時間	区分5	27,440単位 68時間	区分6	35,660単位 88時間	障害児	19,480単位 48時間	令和3年度国庫負担基準	支給基準時間	区分6	94,770単位 467時間	<p>行動援護：平成30年度国庫負担基準÷ 「報酬単位所要時間1時間未満の場合（402単位）」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成30年度国庫負担基準</th><th>支給基準時間</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区分3</td><td>14,790単位 36.7時間</td></tr> <tr> <td>区分4</td><td>19,930単位 49.5時間</td></tr> <tr> <td>区分5</td><td>26,500単位 65.9時間</td></tr> <tr> <td>区分6</td><td>34,440単位 85.6時間</td></tr> <tr> <td>障害児</td><td>18,820単位 46.8時間</td></tr> </tbody> </table> <p>（6）重度障害者等包括支援利用者 重度障害者等包括支援：平成30年度国庫負担基準÷ 「報酬単位所要時間1時間未満の場合（202単位）」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>平成30年度国庫負担基準</th><th>支給基準時間</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>区分6</td><td>85,750単位 424.5時間</td></tr> </tbody> </table>	平成30年度国庫負担基準	支給基準時間	区分3	14,790単位 36.7時間	区分4	19,930単位 49.5時間	区分5	26,500単位 65.9時間	区分6	34,440単位 85.6時間	障害児	18,820単位 46.8時間	平成30年度国庫負担基準	支給基準時間	区分6	85,750単位 424.5時間
令和3年度国庫負担基準	支給基準時間																																
区分3	15,310単位 38時間																																
区分4	20,630単位 51時間																																
区分5	27,440単位 68時間																																
区分6	35,660単位 88時間																																
障害児	19,480単位 48時間																																
令和3年度国庫負担基準	支給基準時間																																
区分6	94,770単位 467時間																																
平成30年度国庫負担基準	支給基準時間																																
区分3	14,790単位 36.7時間																																
区分4	19,930単位 49.5時間																																
区分5	26,500単位 65.9時間																																
区分6	34,440単位 85.6時間																																
障害児	18,820単位 46.8時間																																
平成30年度国庫負担基準	支給基準時間																																
区分6	85,750単位 424.5時間																																